

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鏑木町 198-3
電話 (043) 485-1801

花と戯れる私 ----- 富田 栄 八重の桜、覚馬と佐倉 ----- 井上 恭二
子供のしつけ ----- 及川 栄喜 遙かなる樺太 ----- 萩巢 捷二

安政江戸地震

金井義彰

鏑木町の麻賀多神社の境内に高さ二（二）余の大きな石燈籠が二基並んで建っています。向かって右側の燈籠の笠（いっぼう）のうへの宝珠の下に「安政乙卯十月就地震破損」と小さな文字が刻まれています『こうほう佐倉』No.775)。

この地震が、いまから百五十年ほどまえの安政二年十月二日（一八五五年十一月十一日）の夜半、江戸と周辺地域を襲った安政江戸地震でした。震源地は荒川河口付近か、あるいは少し南の東京湾内とする推定がありますが、いずれにせよ江戸直下を震源とする内陸型地震でマグニチュードは六・九と推定されています。

た。江戸市中の被害は死者一万余人、潰れた家は町方で一万四千軒、地震後、市内の三〇箇所から出火して約二・二平方（キ）の面積を焼失しました。

被害の著しかった地域は江戸とその東隣の狭い範囲に限られていますが、江戸市中ではとくに深川、本所、下谷、浅草が酷く同じ下町でも日本橋、京橋、新橋付近はそれほどでもなかった。また、山手は比較的軽かった。江戸は幕府開府以来、海に向けて埋め立て土地造成を進めてきていますが、もともと台地であったところと埋め立てて地盤が軟弱であったところで明暗を分けました。小石川の水戸藩邸では幕末の志士に影響を与えた藤田東湖と戸田蓬軒が梁の下敷きになって亡くなっていきます。なお、地下鉄神保町駅近くにあった佐倉藩上屋敷

も全壊し全焼しました。神奈川、千葉両県でも揺れが強く、千葉県では松戸、木更津、佐倉で被害が出ました。佐倉では民家が二八五軒、土蔵が二九四棟破損したといわれています。土蔵は家屋より丈夫に造られています。それが壊れるということは地震波に短周期波が多く含まれていることを意味します。

前記の『こうほう佐倉』には地震直後に佐倉藩が調査した佐倉地方の被害状況が紹介されています。「佐倉藩年寄部屋日記」に書き残されているものですが、佐倉城内では本丸館の下屋が半壊して屋根瓦が落ち、一の門が大破したほか何箇所も地割れが発生しています。「麻賀多明神石垣損シ」とも書かれています。また、村々では百姓家の全半壊八五軒、死傷者四人（ともに印旛郡内）をはじめとして被害は道路、橋、田などに及んでいます。

(編集委員)

花と戯れる私

「花は他人に見える場所に置くのが良い」。ある園芸講師の言葉に従い、私も我が家の小さい庭で育てた花の鉢を道路に面した場所へ移すと、道を通る見知らぬ人から声が掛ってくるので驚いた。

私は歳のせい最近花に惹かれてバラと菊を育て始めた。友人がミニバラ園を造っていたのを思い出し、園芸店に行き妻と迷いながら初めて1鉢のバラを買い求めた。その名前はローラ。開花時には庭が一段と華やかになり歌の文句ではないが思わず♪バラが咲いた、バラが咲いた♪と口ずさんだ。年4回も咲くなら安い買い物だと、更にミスターリンカーン、プリンセスモナコ、モダンタイムス他7鉢を買い込んだ。

ところが、6月頃から葉に病気が発生した。数種類の薬剤を購入し、消毒をして事な

きを得たが、やはり綺麗な花と女性にはお金と愛情が必要だと痛感した。一方野菊は、お金も愛情もかけないのに毎家庭の隅で可憐な花を沢山咲かせる。その律義さとけなげなさに強く惹かれる。

グラス片手の夕暮れに、バラの香が溢れる庭先で、花を愛でながら飲む酒はこれまた格別。これを至福の時と言わずして何という。鼻から蠱惑的な香りが、口から白ワインが体中に沁み込み暫し酔酩、花の妖精か銀座のママにでも出合いそうな幻想に陥った。ふと気が付くといつの間にか辺りは薄寒くなり、夢と酔いが一度に覚めた。

花の色香は何とこんなに奥深く、私を魅了して止まないのか改めて不可思議な思いに捉われる。忘れていた花心を取り戻したく、花の手入れに勤しんでいる今日この頃です。

(上志津 富田 栄)

八重の桜、

覚馬と佐倉

NHK大河ドラマ『八重の桜』を見ていますか？その八重の兄、覚馬（西島秀俊の熱演で大人気）が何と佐倉と関係があったのです。

① 佐倉の三太郎との出会い

覚馬は五歳で『唐詩選』の五言絶句を暗唱したほどの優秀な人物でした。嘉永三年（一八五〇）二十二歳の時その才能を認められ江戸に遊学、そこで覚馬は西洋砲術を学ぶため佐久間象山の塾に入りました。当時の象山塾には吉田松陰、勝海舟、坂本竜馬等錚々たるメンバーが揃っていましたが、そこに堀田正睦公を支援した佐倉の三太郎こと木村軍太郎、西村平太郎の二人も塾生として学んでいたのです。

② 油屋に宿泊

それと油屋への宿泊です。嘉永六年（一八五三）、ペリが浦賀に来航、当時江戸湾

防備にあたっていた会津藩は大砲奉行林権助に江戸出府を命じました。その権助に伴って覚馬二度目の江戸詰となり、二年後の安政二年十一月「油屋」に四泊しているのです。何を目的に佐倉に来たのか詳細な記述がなく不明ですが、当時の佐倉藩は、木村軍太郎の兵制改革意見書を基に改革を進めていた時代だったので、その実態を視察に来たのかも知れません？

桂小五郎の事は知られていましたが：まさか覚馬が！ やっぱ歴史って面白い！

(注) 林権助に伴っての江戸詰についてはどの書物にも記述がありますが、嘉永三年の江戸遊学については記録にならぬとの書物もあります。

山本覚馬の活躍は松平容保の京都守護職、新島襄と同志社創立の時代ですから、若い時の記録は少ないのも仕方ありません：。

(山王 井上 恭二)

子供のしつけ

ウォーキングの途中、小学生低学年児童の下校風景に出会った。その中の一人の児童が元気な声で「こんにちは」と挨拶をする。私は思わず「こんにちは。気を付けて帰ってね!」と返事をする。「思わず」というのは、下校途中で出会った児童からは滅多に挨拶をされる事が無いからだ。「知らない人には声を掛けてはダメ」と親から躾けられているから大抵は無視される。それが大きな声で「こんにちは」と言われたのだからびびくりしながらも内心嬉しくなってしまう。「あの子のご両親は素敵な御夫婦なんだろうなあ。良い躾をしているなあ」と呟く。

宮の杜公園を通りかかったら4〜5人の小学生が騒いでいる。虫取りネットの中に綺麗な蝶々がバタバタしている。一人の男の子が「この蝶々は

まだ子供だよ。可哀想だよ! 放してあげようよ」と訴えているが他の子はなかなか「ウン」と言わない。その内渋々とネットから放してやる事になり、その子が「それ飛んで行け! 捕まったらだめだよ! 大きくなって戻ってこいよ!」と喋りながら放してあげた。「この子のご両親は温かい心の持ち主なんだろうなあ。良い育て方をしているなあ」と感心してしまう。

私には孫がいないのでよそ様の子供さんが堪らなく可愛いしとても気になる。いたずらや悪さをしている子供を見ると黙って見ている事が出来ず直ぐ注意をする。素直な子供は「ハイ」と言って止めるが、悪童は「チェツ」と言っ

て悪たれを言いながら走り去る。その度毎に「どんな親御さんなんだろうなあ」と考えてしまう。

(井野 及川 栄喜)

遥かなる樺太

私は昭和19年樺太庁豊原市(現在、サハリン州ユジノサハリンスク)に生まれました。そもそも東京出身であった父ですが、樺太庁勤務の為、極北の地にやってきたのでした。勿論私には樺太の記憶が無く母から聞いた話ですが、その当時はそれなりに平和な暮らしだったようです。昭和20年8月にソ連が、日ソ中立条約を一方的に破棄して侵襲してきました。それから引き揚げるまでの暮らしは大変でほとんどの財産は置いて来たそうです。又、北海道の稚内港に着くまでの船はすし詰め状態で小さな子どもを連れて来た親子6人、良く帰って来たものだと思えました。

昭和22年に札幌に定住しましたが、父の死後一家で東京に戻って来ました。東京で就職してから思いがけず第二の故郷である札幌に転勤することになりました。実に35年ぶりの札幌でした。そこで又々思いがけない出来事が有りました。

生まれた樺太にはまず行く事はないだろうと思っていたところ、2泊3日の短い期間でしたが、サハリンに建設中の石油、天然ガスの出荷基地(サハリンプロジェクト)を見学する機会に恵まれたので

千歳空港から1時間30分ぐらいでユジノサハリンスクに着きます。夏の暑い時期で、ロシアの飛行機はクーラーの効きも悪いうえ、プロペラの音もうるさく快適な空の旅とは言えませんでした。

町の中を廻っていると日本の時代に建てられたものが数多く残っており当時を偲べました。出荷基地はサハリン島の一番南に位置するコルサコフ(旧大泊)のそばで、町が一つ出来るぐらいの大掛かりな工事が進行中でした。現在はもう完成していると思えます。

今となれば遥か遠い国ですが、機会があればもう一度行ってみたいものです。

(山崎 萩菓 捷二)

5月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更、句読点等の修正や語句の訂正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鍋木町198-3

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

さくら道

「シェーン、カムバック！」
往年の西部劇ファンには、忘れられないラストシーンである。ふらりとやって来た流牧畜業者を倒した後、遙かなる山の呼び声に誘われるように夕暮れの草原を馬を跳ばし去って行く。その後ろ姿に、溢れんばかりの涙を堪え「カムバック！」と必死に何度も引き止めるジョーイ坊やの涙声が見え、山脈にこだます

る。やがて「グッバイ、シェーン」に。
アカデミー賞他幾つかの賞を受賞したこの作品はロッキーマウンテンの麓、ワイオミングで撮影され、1953年に公開された名画中の名画である。
ところで「OK牧場」や「アパッチ砦」は一体何処にあるの？何て考えてみたら気持ちはタイムスリップし、二度目の我が青春を謳歌することが出来た。

（田中 修司）

あとがき

昨年、ある本屋で、『考えない練習』という変わった題名の本が目にとまりました。どんなことが書いてあるのだろうと思ひ、早速購入し読んでみました。
著者によると、人間の脳は放っておくと心配事や怒り等のネガティブな考えに占領されてしまい、今やるべきことや今楽しむべきことを阻害してしまう厄介な特徴を持つて

いるようです。
この本には、そこから抜け出すための方法や、心穏やかに過ごすための方法が具体的に書かれていました。
この本を最初に読んだ時、なんとなく穏やかに一日を過ごせた感じがしたので、その後も繰り返し読んでいます。
皆様も心に残った一冊や日々の生活の中で感じたこと等をお気軽に投稿頂ければと思います。

（坂本 初男）